

情報通信審議会 情報通信技術分科会
新世代モバイル通信システム委員会 HAPS 検討作業班（第 1 回）

－ 議事概要 －

1 日時

令和 7 年 8 月 6 日（水）15:00～16:30

2 場所

Web 会議で開催

3 出席者（敬称略）

（1）構成員

藤井 威生（主任）、宮田 純子（主任代理）、大島 直到、小竹 信幸、
門野 貴明、北崎 裕之、北之園 展、黒澤 泉、坂本 信樹、橋本 昌史、
福本 史郎、毛利 政之、森田 靖彦、吉松 孝一郎（代理：武久 吉博）、
和田 憲拓

（2）関係者

靱田 健（株式会社三菱総合研究所）

（3）事務局（総務省）

五十嵐 大和（移動通信課 課長）、乾 浩斉（移動通信課 課長補佐）、
岩佐 直毅（移動通信課 第二技術係長）、
小原 宏朗（基幹通信室 室長）、皆川 克義（基幹通信室 課長補佐）、
藤岡 和也（基幹通信室 主査）

4 議題

- ・議事に先立ち、HAPS 検討作業班運営方針 2（2）に基づき、藤井主任より宮田構成員が主任代理に指名された。

・議事

（1）高高度プラットフォーム（HAPS）の技術的条件について

事務局より資料 1-1、三菱総合研究所 靱田氏より資料 1-2 に基づき説明が行われ、
以下の質疑応答等があった。

宮田主任代理：資料 1-2 の固定系リンクについて、干渉検討においては、例えば山間部や

都市部といった地形や建築環境の違いは加味されているのか。現状では一律の値で検討しているようだったので確認したい。

鞆田氏 : 本検討においては、伝搬損失は一律で自由空間伝搬損失として、サイトジェネラルな検討を行っている。与干渉局からの電波が一番届きやすい環境を想定し最悪条件としているもので、この条件を順守していれば現実では一定程度マージンをもって共用可能であると理解いただければと思う。このため共用条件としてお示ししている離隔距離についても、地形等を考慮することで実際にはより短縮できる見込み。

藤井主任 : 資料 1-2、p26 の PFD 保護基準値に係るグラフはどのように読めばよいのか。オムニアンテナ直下では制限値を満足できているが離れると超過しているのは、直下の方が制限値が緩いということか。

鞆田氏 : ご理解のとおり。参考 1-3 に具体的な数値を記載しているが、隣国からの仰角によって制限値が変化している。

藤井主任 : 超過している距離分隣国の国境から離ればよいということと理解。

宮田主任代理 : 移動系リンクについて、HAPS 移動局については端末が空間上自由に動くこととなるが、その場合でも今回の共用検討結果は問題なく適用できるのか。

鞆田氏 : HAPS 移動局については、地上の携帯電話端末と同じ条件で運用されるものであり、過去の共用検討の結果がそのまま適用できるという理解。その際の検討と同様に、携帯電話端末が移動する場合でも結果は変わらない。

福本構成員 : ロケット運用との共用検討結果について、定性的な調整の方向性については承知した。今後、定量的な共用検討の結果をお示しいただけるのか、それとも事業者間での調整ということになるか。

鞆田氏 : 実際に運用を行う HAPS 事業者とロケット運用のユーザー間で調整が行われるものと考えている。

宮田主任代理 : 将来的に HAPS が複数台運用される場合、HAPS 同士の干渉は考慮しなくてもよいのか。

鞆田氏 : 資料上は掲載していないが、HAPS の旋回半径を踏まえると、HAPS 同士で干渉は与えないという結果となっている。

藤井主任より、大きな異論はなかったため、事務局にて取りまとめに向けて引き続き調整を行うよう連絡があった。

(2) その他

事務局より、次回は8月22日（金）17時から開催する旨連絡があった。

以上